

安川電機 (6506)

2014年3月期決算説明会

2013年3月21日～2014年3月20日

代表取締役会長兼社長 津田 純嗣

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

目次

1. 2013年度(2014年3月期)連結決算

- ・ 2013年度通期実績
- ・ 事業セグメント別売上高構成比
- ・ 仕向先別売上高／売上高構成比
- ・ 営業利益増減要因分析(12年度⇒13年度)
- ・ 2013年度における取り組み

3. 参考資料

- ・ 設備投資,研究開発費,為替の状況
- ・ B/S構造の推移
- ・ 四半期連結売上高推移
- ・ 主要生産拠点

2. 2014年度(2015年3月期)の見通し

- ・ 2014年度通期見通し
- ・ 営業利益増減要因分析(13年度⇒14年度)
- ・ 連結売上高・営業利益推移
- ・ 2014年度における取り組み

セグメント別事業概要

モーションコントロール:(M)

【主要製品】

- ・ACサーボモータ、コントローラ
- ・リニアサーボ
- ・インバータ
- ・パワーコンディショナ
- ・EV用モータドライブシステム など



ACサーボ



汎用インバータ



太陽光発電用
パワーコンディショナ



EV用モータドライブ
システム

ロボット:(R)

【主要製品】

- ・産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装ロボット
 - FPD搬送ロボット、新世代ロボット、ハンドリングロボット
- ・半導体製造装置用ロボット
- ・バイオ・メディカル用途向けロボット など



レーザー切断・溶接対応
高精度軌跡ロボット



バイオメディカル向け
新形双腕ロボット



パラレルリンクロボット

システムエンジニアリング:(S)

【主要製品】

- ・鉄鋼プラント用電機システム
- ・上下水道用電気システム
- ・大型・小形風力発電機 など



上下水道用電機システム



連続鋳造設備



大形風力発電用
発電機とコンバータ

その他

【主要製品】

- ・情報関連事業
- ・物流サービス など



ハイパワーレーザー対応スキャナヘッド



ワイヤレスM2Mサービス
(通信アダプタ)

1. 2013年度(2014年3月期)連結決算

2013年度通期実績(概要)

- ・売上・利益ともに13年度計画を達成
- ・円高是正を背景に大幅増収増益

	<u>13年度 実績</u>	13年度 計画	12年度	<u>前年度比</u>	
売上高	<u>3,636億円</u>	3,600億円	3,104億円	<u>+532億円</u>	<u>+17.1%</u>
営業利益	<u>257億円</u>	255億円	131億円	<u>+126億円</u>	<u>+96.6%</u>
経常利益	<u>271億円</u>	260億円	141億円	<u>+130億円</u>	<u>+92.7%</u>
当期純利益	<u>170億円</u>	155億円	68億円	<u>+102億円</u>	<u>+149.4%</u>

(注)表内「13年度計画」は、2013年10月21日2Q決算発表時の外発数値

2013年度通期実績(セグメント別)

・(M)が大幅な増収増益

	2013年度		2012年度		前年度比	
		利益率		利益率	増減額	増減率
売上高	3,636	-	3,104	-	+532	+17.1%
(M) モーションコントロール	1,623	-	1,289	-	+335	+26.0%
(R) ロボット	1,225	-	1,100	-	+125	+11.4%
(S) システムエンジニアリング	353	-	395	-	▲42	▲10.7%
その他	434	-	320	-	+114	+35.6%
営業利益	257	7.1%	131	4.2%	+126	+96.6%
(M) モーションコントロール	164	10.1%	26	2.0%	+139	+535.8%
(R) ロボット	95	7.8%	81	7.4%	+14	+16.9%
(S) システムエンジニアリング	▲0	-	15	3.9%	▲15	-
その他	11	2.6%	9	2.8%	+2	+24.3%
消去または全社	▲13	-	▲1	-	▲13	-
経常利益	271	7.4%	141	4.5%	+130	+92.7%
当期純利益	170	4.7%	68	2.2%	+102	+149.4%

2013年度通期実績(セグメント別)

(M)

- ・ ACサーボは、スマートフォン・タブレット向けが牽引し、国内外とも好調
- ・ インバータは、太陽光パワコンの売上増加が牽引
- ・ 前年度比で大幅な増収増益

(R)

- ・ 国内外とも自動車向け好調。半導体は好調
- ・ 前年度比で増収増益

(S)

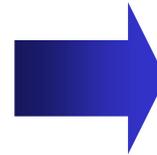
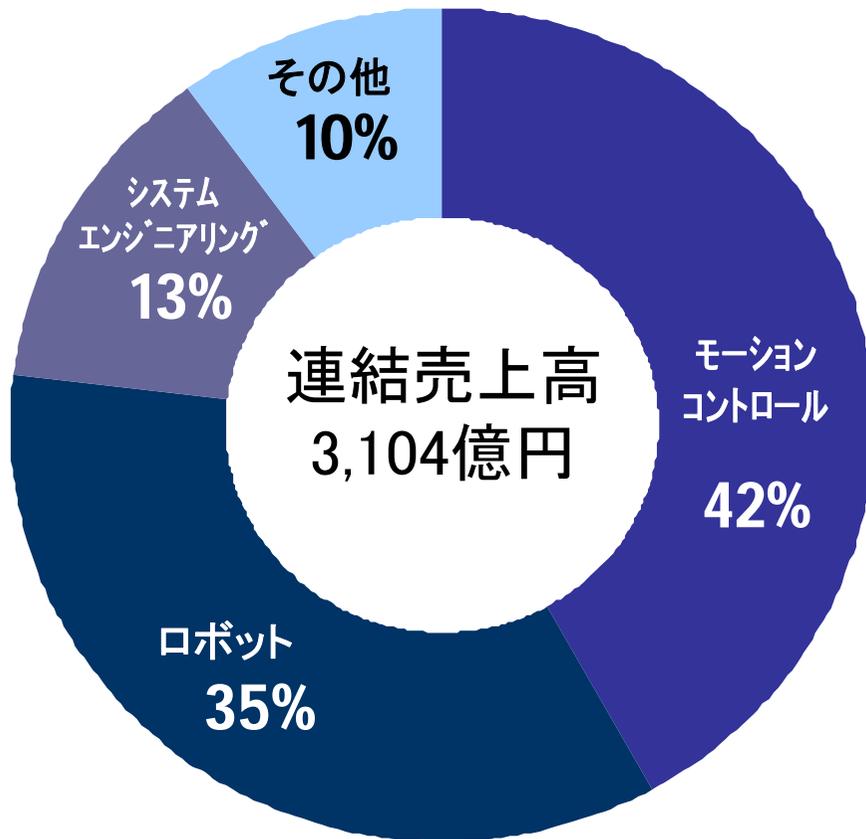
- ・ 鉄鋼プラント向けは端境期。上下水道向けも低調
- ・ 前年度比で減収減益

(注)表記:(M)=モーションコントロール (R)=ロボット (S)=システムエンジニアリング

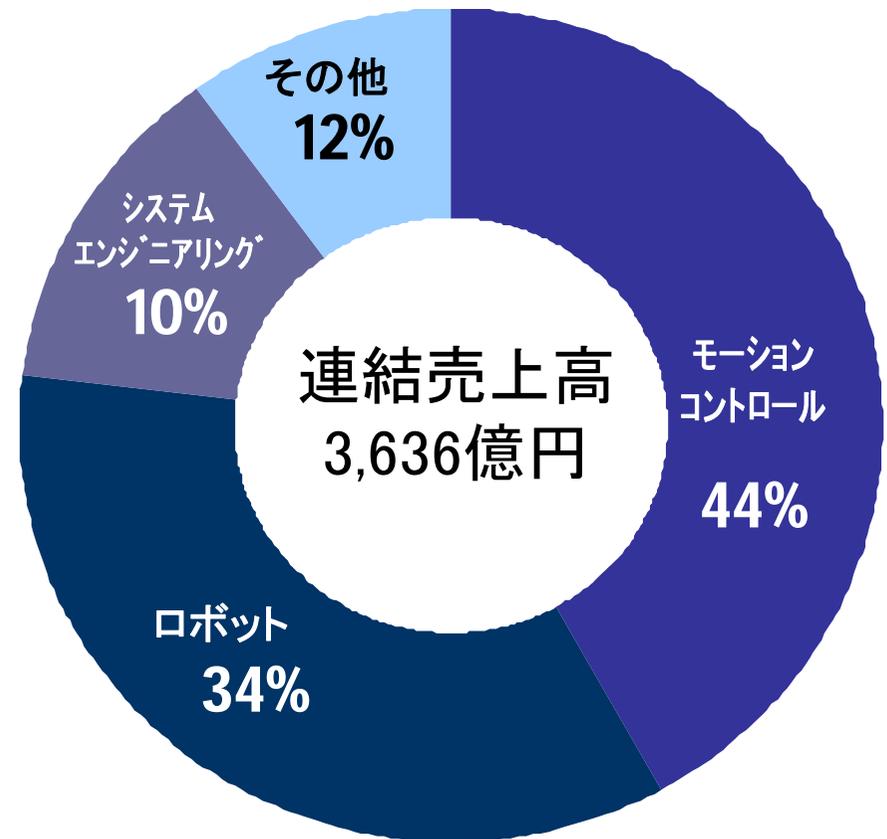
事業セグメント別売上高構成比(2012年度⇒2013年度)

- ACサーボ、太陽光パワコンを中心に(M)が伸長

12年度



13年度



仕向先別売上高(2012年度⇒2013年度)

・円高是正により海外売上高が拡大

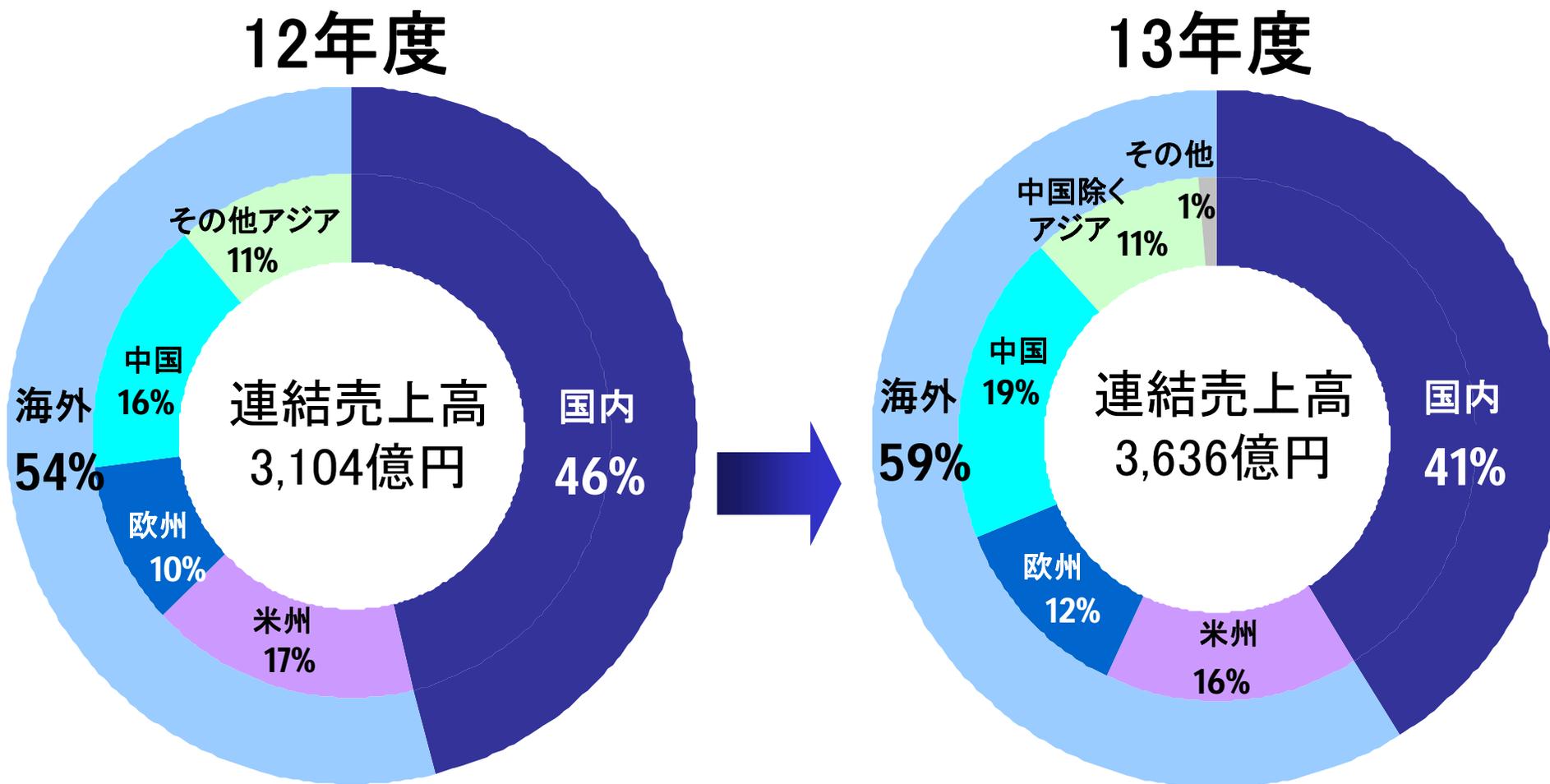
(単位:億円、%)

	13年度	12年度	前年比	
			増減額	増減率
売上高	3,636	3,104	+532	+17.1%
国内	1,501	1,435	+66	+4.6%
海外	2,135	1,669	+465	+27.9%
米州	585	511	+74	+14.4%
欧州	425	320	+105	+32.6%
中国	672	486	+186	+38.3%
その他アジア	414	328	+87	+26.5%

(注) 内訳には「その他地域(オーストラリア等)」の記載は割愛している。

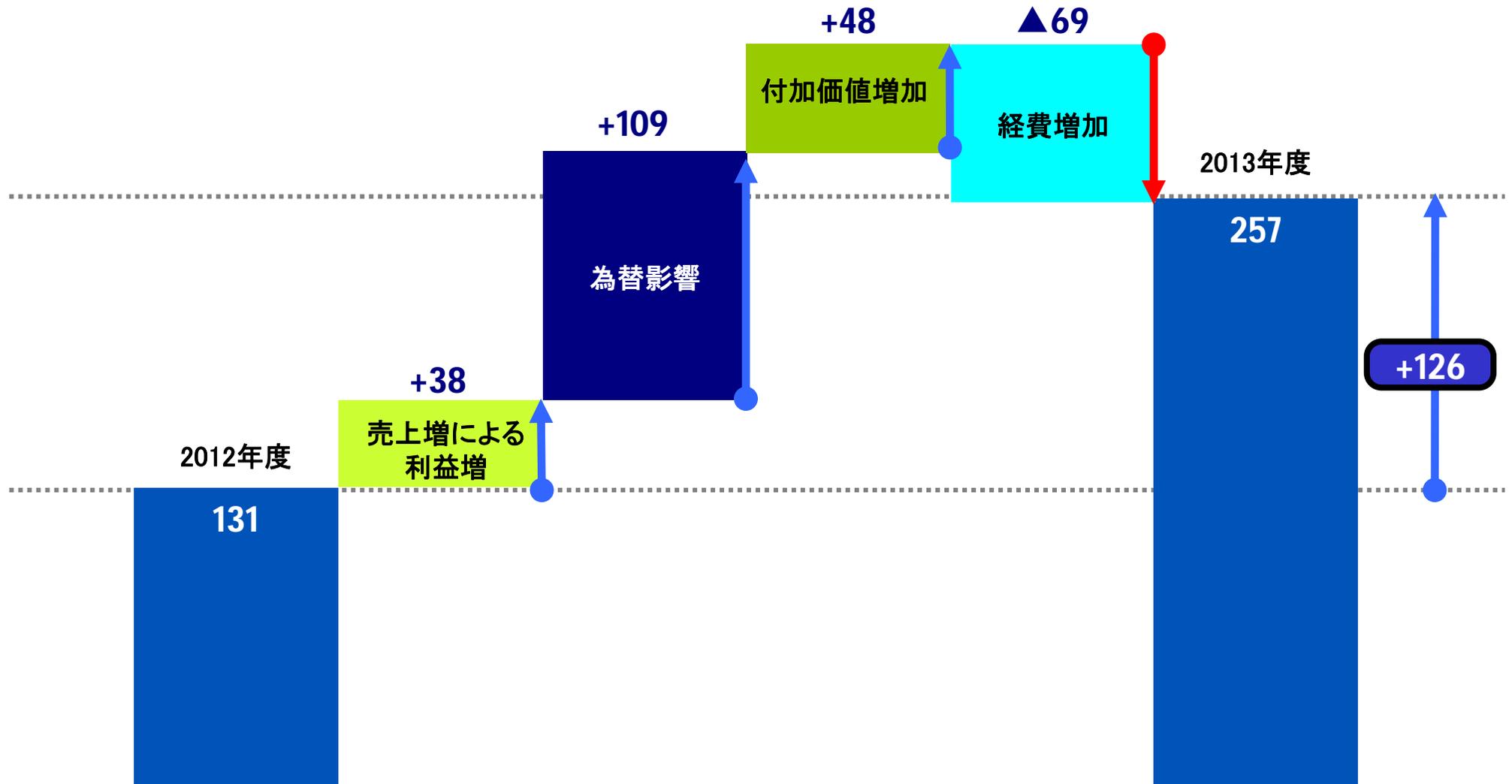
仕向先別売上高構成比(2012年度⇒2013年度)

・中国を中心に、海外売上高比率が伸長



営業利益増減要因分析 (2012年度 ⇒ 2013年度)

(単位: 億円)



2013年度における取り組み①

1) コア事業のシェア拡大:好調・成長市場を軸とした拡販

- ・ 中国市場における拡販に注力
 - ⇒ 中国でのローカル開発力の強化
 - ⇒ 中国「カイエルダロボット社」へ出資（13年11月）
（中国におけるアーク溶接ロボットシステムの販売強化）
- ・ 中東・東欧地域への展開
 - ⇒ トルコに現地法人を設立（13年7月）
- ・ 投資効果最大化による受注拡大
 - ⇒ VIPA社とのシナジー効果創出
 - ⇒ ロボットセンタのグローバル展開加速
- ・ 横河電機DDモータ事業の譲受（13年12月）



安川トルコ



VIPA社

2013年度における取り組み②

2) コア事業の利益率向上

- ・コスト構造の改善
 - ⇒ 瀋陽工場の最大活用
 - ⇒ ロボット生産体制の強化
(国内工場再編・中国生産開始)



アーク溶接
ロボット

スポット溶接
ロボット

ハンドリング
ロボット

- ・新製品の投入と主力機種の内価低減
 - ⇒ インバータ主力機種のコストダウン
 - ⇒ 産業用ロボット(モートマン)の新機種投入
 - ⇒ 新形ACサーボシリーズ「Σ-7」の投入(13年11月)
(生産自動化率の大幅な向上: 50%(従来機種)⇒90%(目標))



- ・K-30プログラムによる業務の効率化

2013年度における取り組み③

3) 新規事業への取り組み

- ・太陽光パワコン事業のさらなる拡大

⇒ 13年度売上:130億円

⇒ 家庭用市場への差別化製品投入(13年10月)と拡販



屋外設置型パワーコンディショナ
(住宅用・産業用)

- ・大型風力電機品の拡販加速

⇒ Switch社との業務提携(13年9月)によるシナジー創出



MOTOMAN-BMDA3

- ・ロボット新分野への積極展開

⇒ バイオメディカル分野での拡販加速

⇒ 医療・リハビリ分野における積極展開

- ・リハビリ装置の開発(川平法、足首アシスト、移乗アシスト)

- ・下肢用リハビリ装置の製品化と医療機器認定取得(13年12月)

- ・アルゴ社との戦略的提携(歩行アシスト装置 "ReWalk")



下肢用リハビリ装置LR²

2. 2014年度(2015年3月期)連結決算の見通し

2014年度通期見通し(概要)

・中国の回復継続、欧米の回復により増収増益

	2013年度 実績	<u>2014年度 計画</u>	<u>前年度比</u>	
売上高	3,636億円	<u>3,800億円</u>	<u>+164億円</u>	<u>+4.5%</u>
営業利益	257億円	<u>275億円</u>	<u>+18億円</u>	<u>+7.0%</u>
経常利益	271億円	<u>280億円</u>	<u>+9億円</u>	<u>+3.4%</u>
当期純利益	170億円	<u>175億円</u>	<u>+5億円</u>	<u>+3.2%</u>

2014年度通期見通し(セグメント別)

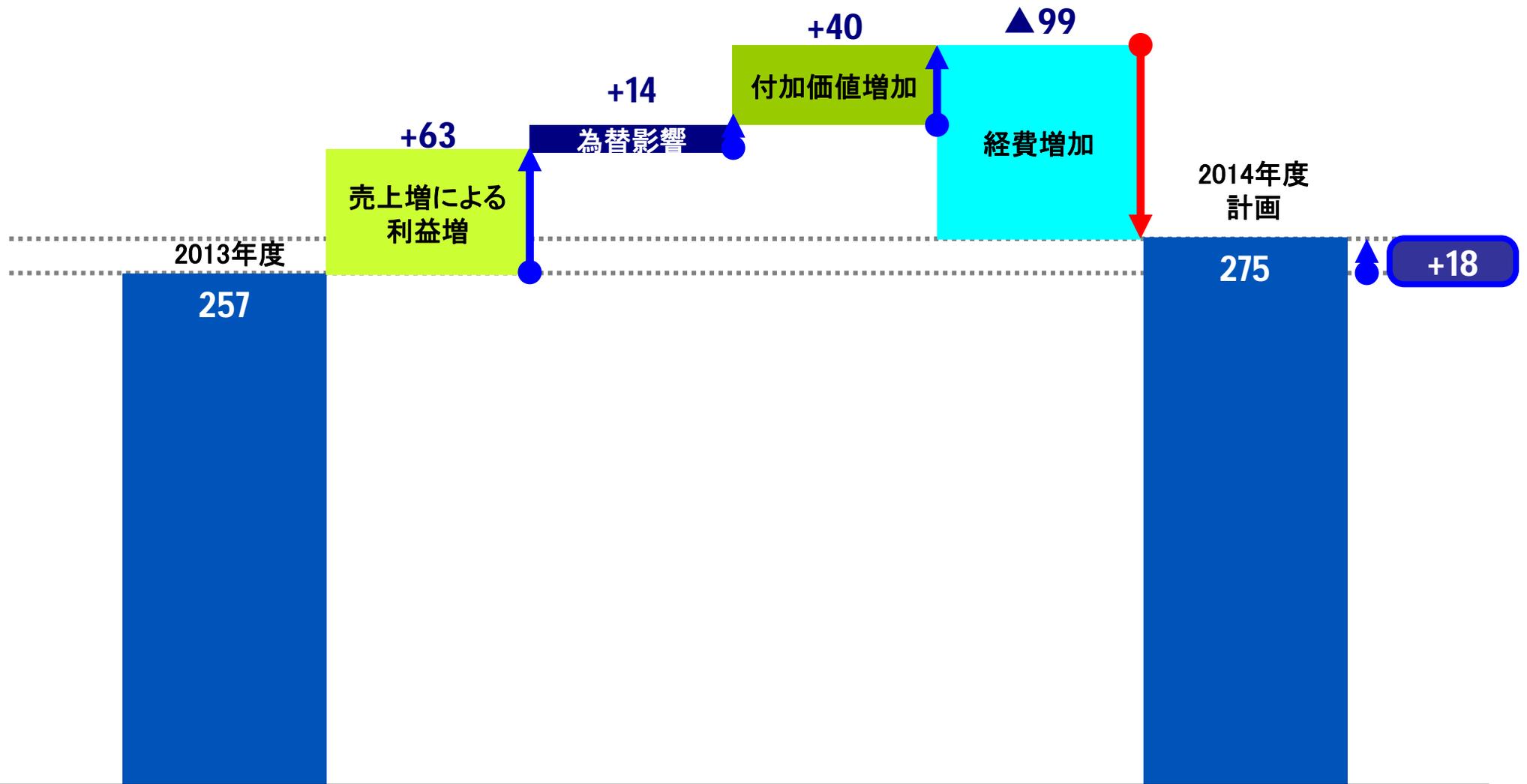
・堅調な(M)(R)を中心に確実な増収増益

(単位: 億円、%)

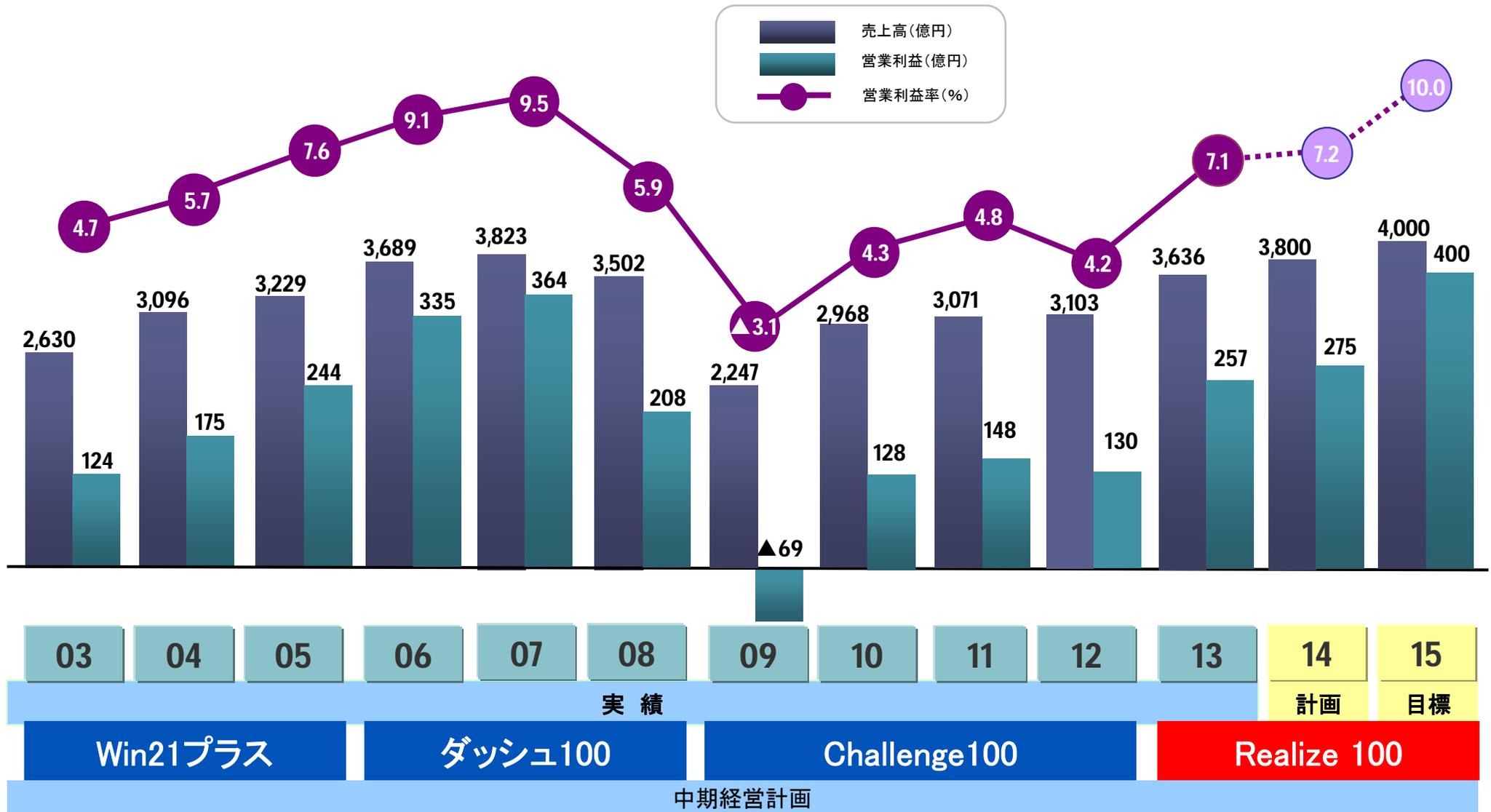
	2014年度		2013年度		前年同期比	
	計画	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
売上高	3,800	-	3,636	-	+164	+4.5%
(M) モーションコントロール	1,735	-	1,623	-	+112	+6.9%
(R) ロボット	1,315	-	1,225	-	+90	+7.3%
(S) システムエンジニアリング	350	-	353	-	▲3	▲0.9%
その他	400	-	434	-	▲34	▲7.7%
営業利益	275	7.2%	257	7.1%	+18	+7.0%
(M) モーションコントロール	172	9.9%	164	10.1%	+8	+4.6%
(R) ロボット	113	8.6%	95	7.8%	+18	+18.8%
(S) システムエンジニアリング	▲2	-	▲0	-	▲1	-
その他	6	1.4%	11	2.6%	▲6	▲50.5%
消去または全社	▲14	-	▲14	-	▲0	-
経常利益	280	7.4%	271	7.4%	+9	+3.4%
当期純利益	175	4.6%	170	4.7%	+5	+3.2%

営業利益増減要因分析(2013年度⇒2014年度計画)

(単位:億円)



連結売上高・営業利益推移(2003年度～2015年度目標)



2014年度における取り組み①

1) コア事業の受注拡大

- ・ 販売網・販売体制の強化
⇒ 中国を中心にグローバルでのローカル開発の強化
- ・ パートナー企業との連携強化
⇒ VIPA社とのシナジー効果の最大化
⇒ カイエルダ社との連携強化
⇒ ロボットセンタ（SI拠点）のグローバル展開加速
- ・ 新製品（差別化製品）拡販によるシェア拡大
⇒ 新製品Σ-7の拡販加速
⇒ 新形産業用ロボット（モートマン）の市場投入加速と拡大



VIPA社



アーク溶接
ロボット

スポット溶接
ロボット

ハンドリング
ロボット

2014年度における取り組み②

2) 生産力・販売力・開発力の強化による高収益体質の実現

- ・ グローバル生産体制の強化
 - ⇒ 国内外生産拠点の自動化推進
 - Σ -7 生産ラインの大幅自動化
(自動化率50%(従来機種)⇒90%(目標))
 - (瀋陽)における Σ -7の生産開始 (14年度上期)
- ・ グループ開発力の強化
 - ⇒ インバータの次期モデル開発着手
 - ⇒ ACサーボの地域攻略向け製品の開発
- ・ K-30活動プログラムの定着とグローバル展開の加速



安川電機(瀋陽)有限公司

2014年度における取り組み③

3) 環境・エネルギー分野の事業拡大

- ・ 太陽光発電用パワコンの売上拡大
⇒ 戦略製品の投入によるシェア拡大
- ・ 大形風力発電用電機品の事業化加速
⇒ Switch社とのシナジーの早期創出および量産案件の確保
- ・ EV用ドライブシステムの事業化
⇒ 国内メーカーからの量産向け開発案件の確保
⇒ 中国メーカーからの量産案件の積極取り込み



世界初のGaN搭載
パワーコンディショナ開発発表
(2012年10月発表)

4) ヒューマンアシスト分野の本格事業展開

- ・ バイオメディカル市場向けロボットの事業拡大
⇒ 統括事業部を設置し、事業化加速
- ・ 医療・介護・福祉事業化推進
⇒ アルゴ社「ReWalk」の販売準備⇒国内外販売網の構築
⇒ 下肢用リハビリ装置「LR²」の中国販売の推進



MOTOMAN-BMDA3



下肢用リハビリ装置LR²

4. 参考資料

設備投資、研究開発費、為替の状況

◆設備投資（連結）

（単位：億円）

	2012年度	2013年度	2014年度計画
設備投資額	158.9	169.8	230.0
減価償却費	81.1	92.2	110.0

◆研究開発投資（連結）

（単位：億円）

	2012年度	2013年度	2014年度計画
研究開発投資	107.3	140.3	150.0

◆為替（連結）

（単位：円）

	2012年度	2013年度	2014年度計画
	通期	通期	想定レート
対 米ドル	81.9円	99.6円	100.0円
対 ユーロ	105.7円	132.7円	140.0円

（注）日々レートの単純平均

B/S構造の推移

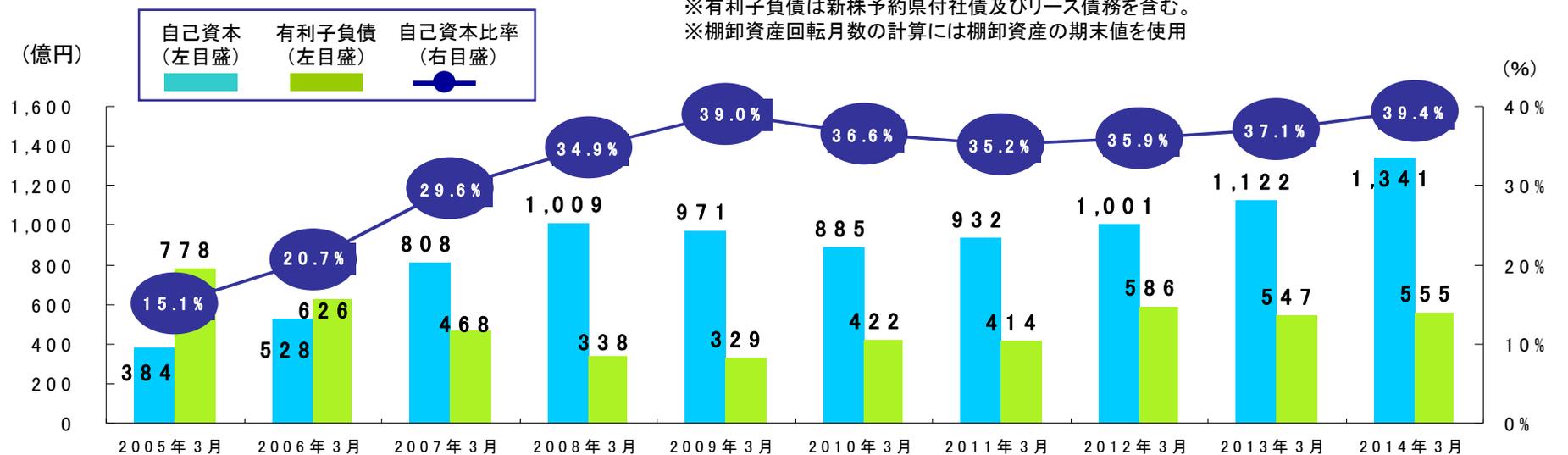
2013年3月20日時点

- 自己資本比率 37.1%
- 自己資本 1,122億円
- 有利子負債 547億円
- D/Eレシオ 0.49
(ネットD/Eレシオ) 0.31
- 棚卸資産 643億円
(回転月数) (2.5ヶ月)

2014年3月20日時点

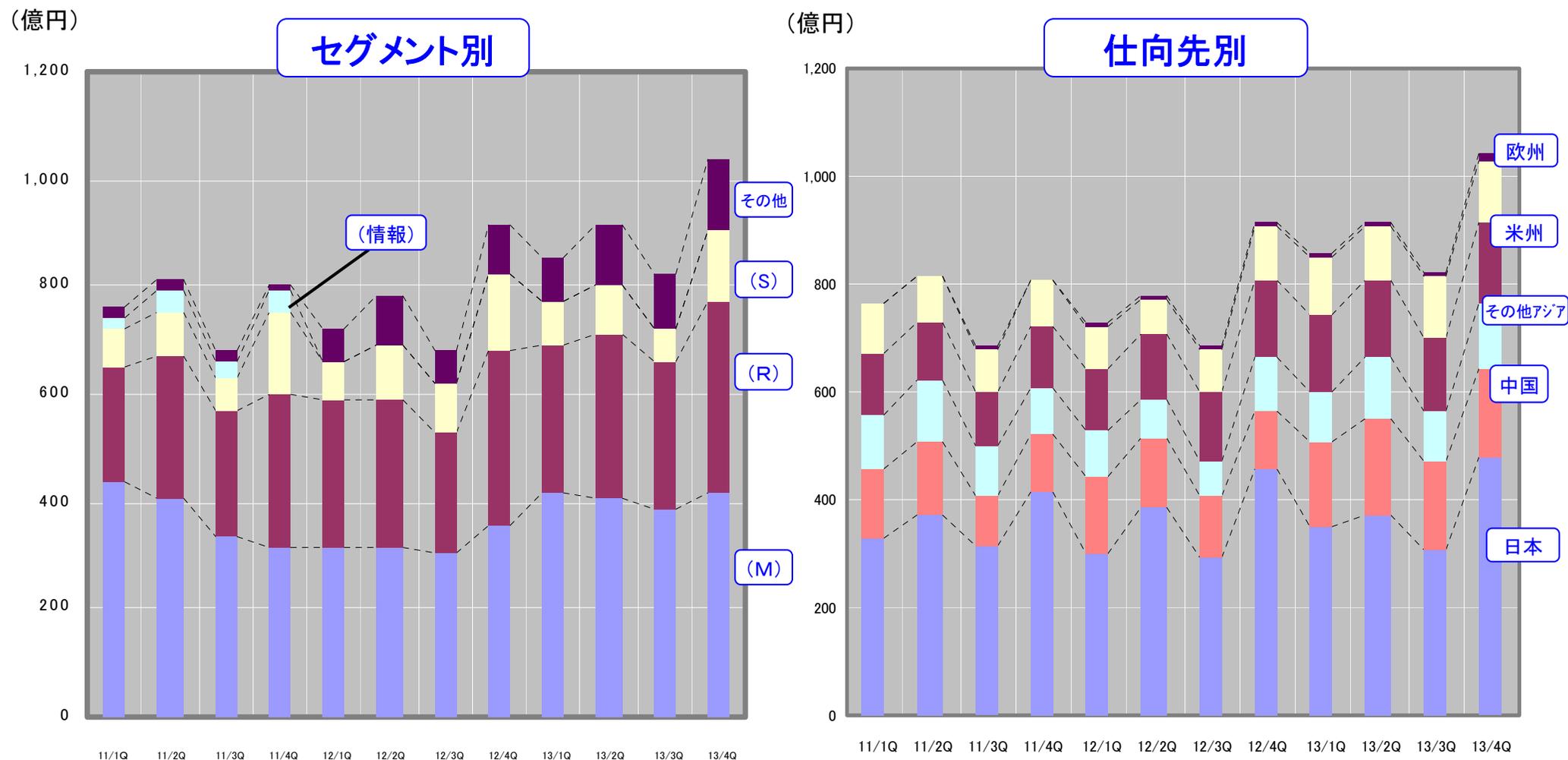
- 自己資本比率 39.4%
- 自己資本 1,341億円
- 有利子負債 555億円
- D/Eレシオ 0.41
(ネットD/Eレシオ) 0.24
- 棚卸資産 784億円
(回転月数) (2.6ヶ月)

※有利子負債は新株予約権付社債及びリース債務を含む。
※棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用



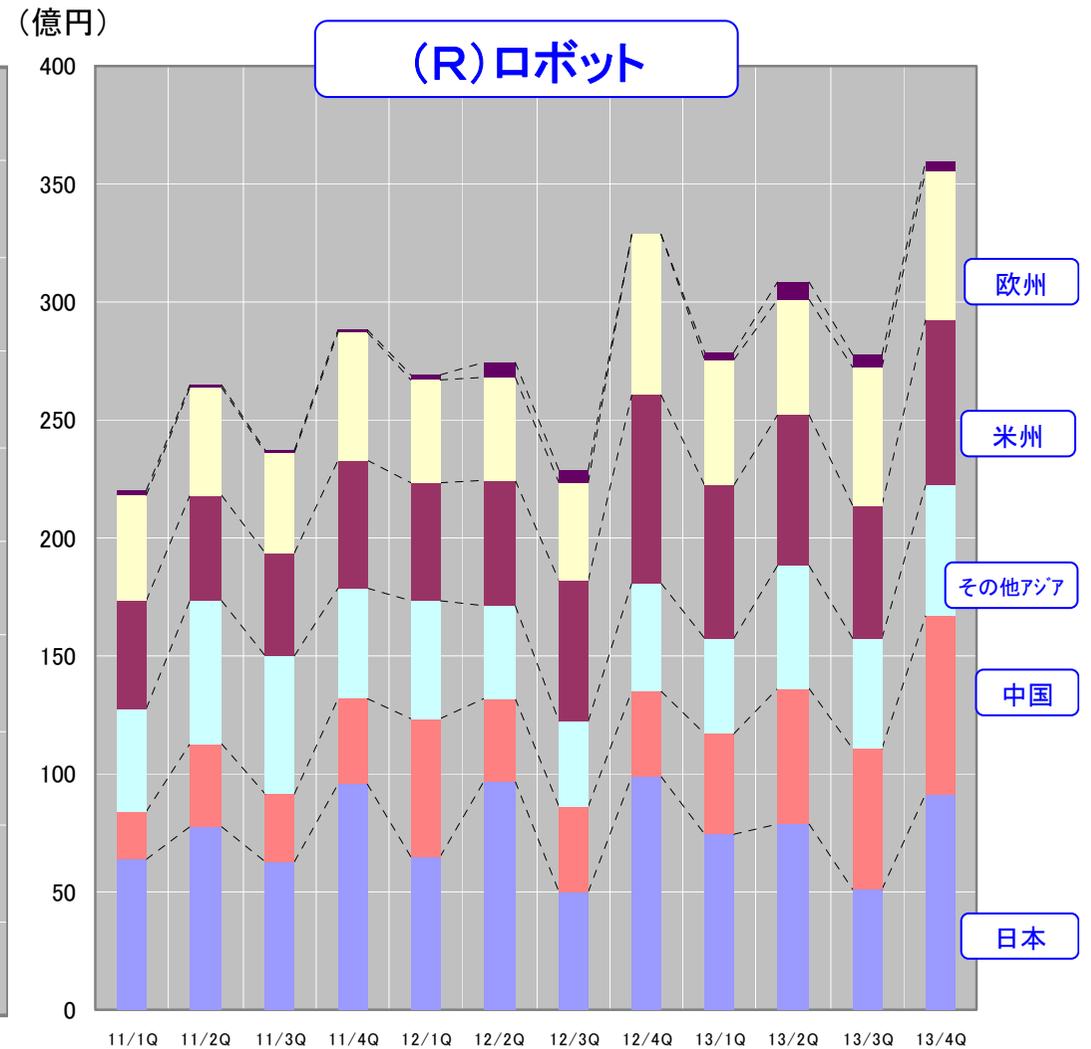
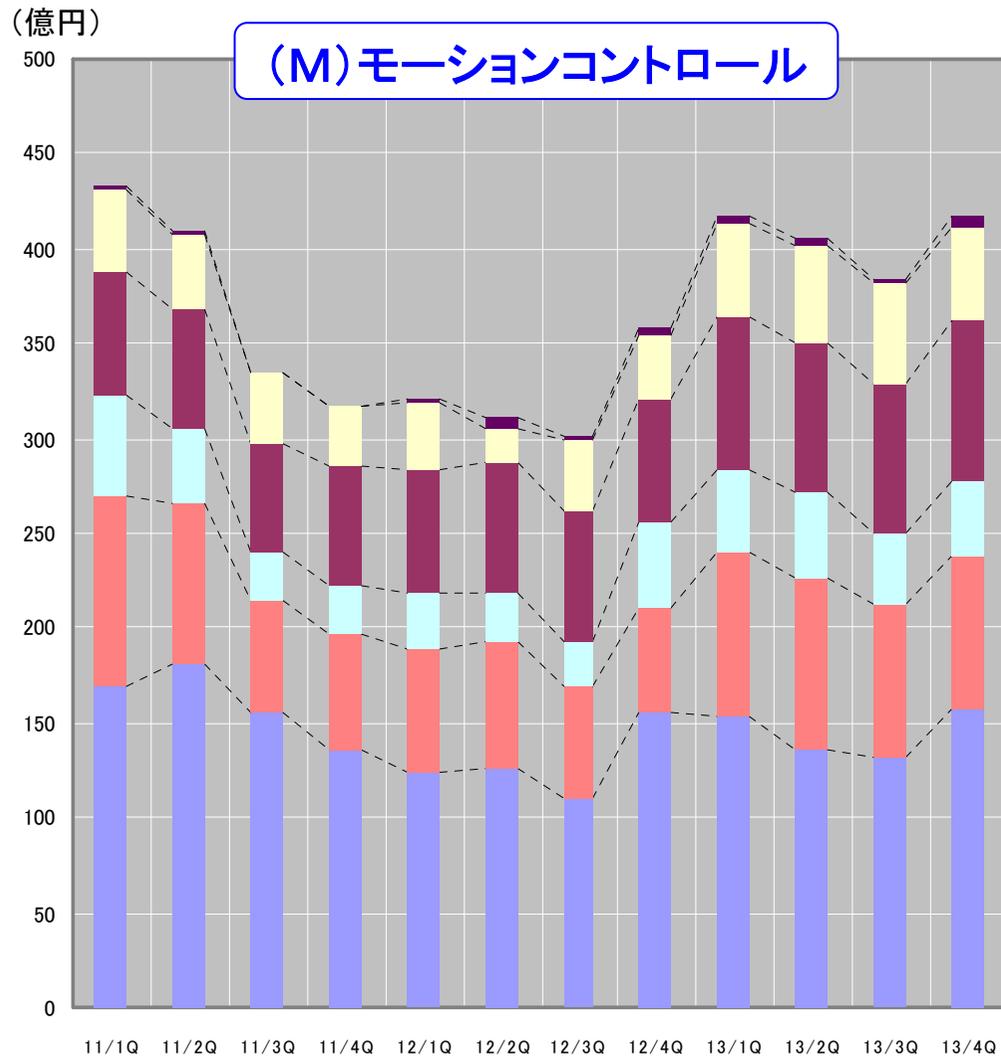
営業CF	58	187	150	177	125	40	25	64	246	241
投資CF	▲22	▲97	▲61	▲99	▲107	▲65	▲67	▲119	▲181	▲170
フリーCF	35	90	89	78	18	▲24	▲43	▲55	66	70

四半期連結売上高推移



- (注) 1. 表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット (S) = システムエンジニアリング
 2. 2013年7月18日発表のセグメント変更後のベースで、12年度1Qまで遡り修正

四半期連結売上高推移



(注) 2013年7月18日発表のセグメント変更後のベースで、12年度1Qまで遡り修正

主要生産拠点



注記

本資料に記載されている業績見通しは将来の予測であり、当社が現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な原因には当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。